

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790500080		
法人名	株式会社 エム・シー・エス四国		
事業所名	愛の家グループホーム観音寺大野原		
所在地	香川県 観音寺市大野原町中姫1147番地1		
自己評価作成日	平成28年11月1日	評価結果市町受理日	平成28年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/37/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成28年12月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念である「明るくいきいき・のんびりと・いつも・笑顔でいっぱいになります。また、小さい事にも愛をいっぱい込めます。」をもとに丁寧で誠実な支援に努め、ご入居者様・ご家族様が安心して信頼して頂き、また笑い声の絶えないホームを目指しています。また、地域にも専門性を活かした活動を行えるように少しずつ取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

当事業所は観音寺市の南部に位置し、レタスやブロッコリーの栽培が盛んな静かな地域に立地している。開設4年目となり、職員は地域密着型サービスを提供する事業所としての役割を果たすために努力している。目標は①地域との交流を推進していくこと②職員の教育である。そのために、地域運営推進会議に地域住民に多数参加してもらうこと、また地域のボランティア団体とホームとの協力関係を築くこと、若い職員が仕事にやりがいや喜びをもって取り組めるような環境作りを重点として取り組んでいる。今後、地域に根ざした質の高いグループホームを目指して努力している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットへ事業所独自の理念を提示することで共有し実践に繋げている	職員は理念に基づき、利用者が不安なく安心して生活できるように支援している。利用者の身体面や精神面のささいな事にも注意を払い、ケアの対象として実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の挨拶やホーム行事の際の案内などに努めており、幼稚園の方々とも行事へ参加させて頂くなど公民館や体育館を施設行事に利用させてもらっている	事業所を地域の人に理解してもらったり、つながりを深めるために近所の商店から食材を購入している。祭りには太鼓台の休憩場所として、事業所の庭を提供しようと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談会、救命講習などの計画はあるが、現在、開催できるように検討する		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や自治会長、地域民生員、参加して下さっており、ご家族も日にもよるが参加いただけおり参加者の方々にはホームの状況など報告し意見をもらっている	昨年から、近隣の住民が年1回ではあるが、参加してくれるようになった。8月の会議でメンバーから出された意見に転倒予防対策がある。協議した結果は、サービス向上に活かすように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他、直接連絡を取り相談・協力をして頂けている	毎月、市の担当課に行き、事業所の取り組みや利用者の状態を報告している。担当職員との話し合いやアドバイスは事業所の運営に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な行為以外、言葉や態度の抑制等について勉強会等行うことで日頃より意識を高く持ちおこなっている 玄関の開錠には十分な取り組みができていない	職員は本社から送られてくる身体拘束に関する具体例を参考に自己チェックしている。転倒や転落事故予防を話し合い、身体拘束しないケアとして床にコールセンサーを設置し、見守りを強化している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などにより虐待防止について学ぶ機会を定期的に設けスタッフ同士でも関係を作り入居者の不穏があったとしても交替する等して虐待へ発展しないようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解に関する研修を行い読み合わせになっているが理解し努めるよう取り組んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に十分に納得して頂けるようにし理解して頂けるまで時間をかけ説明を繰り返し納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置を行い、また気軽に話して頂けるような関係作りに励んでいる	毎年、事業所独自の家族アンケートを実施している。結果は玄関に掲示し、家族の意見は運営推進会議の場で話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会を開催し意見の交換や提案等を行い、その都度、現場へ反映させている	管理者は職員が何でも話せる雰囲気作りに努め、常に職員が働きやすい環境作りを考えている。職員全員で行う「手打ちうどん」や「口腔体操」などは、職員の意見を取り入れた行事である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	余裕ある人員体制を確保しスキルアップの為に研修制度、支援制度が活用できるよう図っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他事業所同士での勉強会を開催している 支援制度を活用して現在受講中の職員もいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との情報交換も少しずつ行えるようになってきており一カ月に一度は訪問活動を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前よりご本人との面接を行い状態の把握に努める		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの依頼があった時より入居前、入居初期にはコミュニケーションの機会を多く持ち関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時その時の状態に応じた最善の方法を探り、その都度、状態に応じたケアを行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重し、共に暮らす姿勢を持っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意思や願いを尊重し、共にご本人を支えていく関係が築けるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の際などゆっくりお話できるよう案内させて頂いたりし常に関係作りに取り組んでいる	利用者の友人や弟子などが訪れた時は、椅子を用意し気兼ねなく会話できるようにしている。12月は年賀状を書く支援を行い、新年を迎える準備となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の人間関係等を理解しながら、良好な関係が保てるよう努め、廊下においてあるソファにてご入居者同士で雑談している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去になった場合等お見舞いに行くなどしている 退院後のご相談にも応じ、また手作りアルバム作成し関係を継続していけるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活スタイルや意思を尊重し、希望や意向の把握に努めている	入居前に家族や医療機関から、情報を入手し入居後は利用者の思いや好みなどを日常生活の中で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族から生活歴等もアセスメントし、馴染みある物を持って来て頂き環境を作りサービスの提供にいかせるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態の変化に早期に気付けるよう観察し、そのときの状態に応じた支援が行えるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を聞き職員個々が評価を行いユニット会等で検討見直しを行っている	本人や家族の意見と職員が日々のケアで気づきを記入したメモをユニット会で協議し、介護計画を作成している。ユニット会は毎月1回、午後7時から9時まで開催され、職員間で情報の共有が行われている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子を記入し、また申し送りノートを活用し情報を共有しながら介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	具体的な取り組みはないが一緒に行える行事等、運営推進会議等を通じ相談している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園の運動会への参加や、地域包括支援センターのボランティア登録者の訪問等が少しずつ行えている。また、地域の業者に定期的な配達を依頼している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診を受けており、連携により相談も行っている 訪問看護との連携、相談体制も出来ている また、急な場合でも早急な対応を行って下さっている	本人や家族が希望する医療機関で受診できるように支援している。通院介助は原則、家族が行い、受診結果は連絡し合っている。現在2名の利用者は家族と共に、総合病院へ通院している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所看護師と共に日常の健康管理を行い、医療機関との連携体制もできている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会に行き、病院関係者との情報交換や相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針があり、御家族の意向に沿って全員が取り組んでいく姿勢がある ご家族への終末期の説明書なども独自に準備している	重度化した時の対応は、早い時期から、本人や家族と話し合っている。事業所で出来ること・出来ないことを説明し、医師や看護師、職員が連携を取り、納得した最後を迎えられるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを提示し、応急手当、AEDの使用法などの勉強会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、災害時対策などの研修の機会もある	年2回夜間火災想定避難訓練を行い、食料・水などは数日分備蓄している。今年目標である地域住民の協力体制確立は未達成であるが、イベントを通じて、つながりをふやすように計画している。	地域住民を巻き込んだ大規模震災の避難訓練の実施や避難支援マニュアルの整備の検討を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーを尊重し、様々な場面において心配りしている 職員は、正しい言葉使いができるよう日々指導に努めている	誇りやプライバシーを損ねないケアを実施するために、定期的な勉強会を開催している。日々の介護記録や会話は記号(○、×、△、□)を使用し便失禁が利用者を傷つけないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の意思状況を尊重し、職員主導にならないよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り御本人の希望を取り入れ、個々のペースで生活できるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択も出来る限り御本人が行えるよう支援し、好みなどの把握にも努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に会話を楽しみながらゆっくりと食事できるようにしている。準備や片付けも出来る範囲で一緒に行っている	職員が栄養士のたてた献立を利用者好みにアレンジしている。調理に関する一連の行為は、利用者の力を活かしながら職員と一緒に作り食事を共にしている。月1回のおやつ作りも楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事形態での提供を行い食事量、水分量の把握は行っている。声掛けの工夫やゼリー等の補食を準備し、摂取不良にできる限りならないように努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは行っている。口腔状態により、歯科に相談、義歯調整等も往診依頼している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握し、タイミングの良い声掛けで気持ち良く過ごして頂けるよう支援している	日中はトイレで排泄することを原則とし、職員が声かけや誘導しているため、利用者全員がオムツをはずしている。失禁時の対応は、さりげなく行い、自尊心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分摂取量に気をつけ、散歩や運動による予防に努めている。また水分摂取や運動、排便確認が難しい方に対しては看護師に相談やユニット会で相談行い、下剤や漢方(お茶)を利用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりがゆっくり入浴出来るよう支援している。声掛け等にも工夫しており、拒否が継続してしまう場合、無理強いせず清拭等にさせて頂き対応している。ご家族の協力を得る時もあり入浴できている	利用者の習慣や好みを考慮し、いつでも入浴できるようにしている。毎日入浴する利用者や職員2人介助で入浴する利用者もいる。異性の職員が介護する場合は利用者の意向を聞いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や習慣に応じて休めるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容の把握、指導は行っている。変更時も確認し適切な服薬支援を心がけている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の日課など一人ひとりの意思や能力に応じた対応を心掛けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩等、希望に沿って支援に努めている。ドライブや外食等にも心がけている。また、外出する方がかたよらないように本人の希望を聞きながら楽しめるようにしている	週1~2回、外出し気分転換している。歩行困難な利用者は車いすを利用し、みんなで戸外へ出かけている。近くのバラ園まで散歩したり、車で買い物やドライブを楽しんでいる。	市社会福祉協議会や地域包括支援センターにボランティアを依頼し安全な外出支援が増えることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預かるようにしている。小銭等を持たれている方もいる。買い物の際も御自分で払えるようお渡しする事もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はいつでも電話のやり取りができる。(ご家族との事前の相談のうえ)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾りに配慮している。壁画作成を一緒に行い、季節ごと月ごとに変更している	食堂や廊下は明るく、窓から日光が差し込み暖かく快適である。温度や湿度、換気に注意し居心地よく過ごせるように配慮している。フロアの飾りは利用者と一緒に考えて季節が感じられるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の途中にソファを配置し、個々が利用できるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族、ご本人に出来るだけ馴染みの物を持ってきてもらっている	居室の入口は利用者の顔写真と名前、移動時に必要な用具を図式化して貼っている。居室内はベッドやタンス、写真などを持ち込み、本人らしい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを多く配置し、安全に移動できるよう配慮している トイレや居室には目印をつけている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットへ事業所独自の理念を提示することで共有し実践に繋げている
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の挨拶やホーム行事の際の案内などに努めており、幼稚園の方々とも行事へ参加させて頂くなど公民館や体育館を施設行事に利用させてもらっている
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談会、救命講習などの計画はあるが、現在、開催できるように検討する
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や自治会長、地域民生員、参加して下さっており、ご家族も日にもよるが参加いただけおり参加者の方々にはホームの状況など報告し意見をもらっている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の他、直接連絡を取り相談・協力をして頂けている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な行為以外、言葉や態度の抑制等について勉強会等行うことで日頃より意識を高く持ちおこなっている 玄関の開錠には十分な取り組みができていない
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などにより虐待防止について学ぶ機会を定期的に設けスタッフ同士でも関係を作り入居者の不穏があったとしても交替する等して虐待へ発展しないようにしている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解に関する研修を行い読み合わせになっているが理解し努めるよう取り組んでいる
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に十分に納得して頂けるようにし理解して頂けるまで時間をかけ説明を繰り返し納得を図っている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置を行い、また気軽に話して頂けるような関係作りに励んでいる
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会を開催し意見の交換や提案等を行い、その都度、現場へ反映させている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	余裕ある人員体制を確保しスキルアップの為に研修制度、支援制度が活用できるよう図っている
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他事業所同士での勉強会を開催している 支援制度を活用して現在受講中の職員もいる
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との情報交換も少しずつ行えるようになってきており一カ月に一度は訪問活動を行っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前よりご本人との面接を行い状態の把握に努める
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの依頼があった時より入居前、入居初期にはコミュニケーションの機会を多く持ち関係作りに努めている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時その時の状態に応じた最善の方法を探り、その都度、状態に応じたケアを行っている
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重し、共に暮らす姿勢を持っている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意思や願いを尊重し、共にご本人を支えていく関係が築けるよう努めている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の際などゆっくりお話できるよう案内させて頂いたりし常に関係作りに取り組んでいる
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の人間関係等を理解しながら、良好な関係が保てるよう努め、廊下においてあるソファにてご入居者同士で雑談している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去になった場合等お見舞いに行くなどしている 退院後のご相談にも応じ、また手作リアルbum作成し関係を継続していけるよう努めている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活スタイルや意思を尊重し、希望や意向の把握に努めている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族から生活歴等もアセスメントし、馴染みある物を持って来て頂き環境を作りサービスの提供にいかせるように努めている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態の変化に早期に気付けるよう観察し、そのときの状態に応じた支援が行えるよう努めている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を聞き職員個々が評価を行いユニット会等で検討見直しを行っている
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子を記入し、また申し送りノートを活用し情報を共有しながら介護計画に活かしている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	具体的な取り組みはないが一緒に行える行事等、運営推進会議等を通じ相談している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園の運動会への参加や、地域包括支援センターのボランティア登録者の訪問等が少しずつ行えている。また、地域の業者に定期的な配達を依頼している
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診を受けており、連携により相談も行っている 訪問看護との連携、相談体制も出来ている また、急な場合でも早急な対応を行って下さっている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所看護師と共に日常の健康管理を行い、医療機関との連携体制もできている
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会に行き、病院関係者との情報交換や相談を行っている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針があり、御家族の意向に沿って全員が取り組んでいく姿勢がある ご家族への終末期の説明書なども独自に準備している
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを提示し、応急手当、AEDの使用法などの勉強会を行っている
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い、災害時対策などの研修の機会もある

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーを尊重し、様々な場面において心配りしている 職員は、正しい言葉使いができるよう日々指導に努めている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の意思状況を尊重し、職員主導にならないよう努めている
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り御本人の希望を取り入れ、個々のペースで生活できるよう支援している
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択も出来る限り御本人が行えるよう支援し、好みなどの把握にも努めている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に会話を楽しみながらゆっくりと食事できるようにしている。準備や片付けも出来る範囲で一緒に行っている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事形態での提供を行い食事量、水分量の把握は行っている。声掛けの工夫やゼリー等の補食を準備し、摂取不良にできる限りならないように努めている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは行っている。口腔状態により、歯科に相談、義歯調整等も往診依頼している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握し、タイミングの良い声掛けで気持ち良く過ごして頂けるよう支援している
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分摂取量に気をつけ、散歩や運動による予防に努めている。また水分摂取や運動、排便確認が難しい方に対しては看護師に相談やユニット会で相談行い、下剤や漢方(お茶)を利用している
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりがゆっくり入浴出来るよう支援している。声掛け等にも工夫しており、拒否が継続してしまう場合、無理強いせず清拭等にさせて頂き対応を行っている。ご家族の協力を得る時もあり入浴できている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や習慣に応じて休めるよう支援している
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容の把握、指導は行っている。変更時も確認し適切な服薬支援を心がけている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の日課など一人ひとりの意思や能力に応じた対応を心掛けている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩等、希望に沿って支援に努めている。ドライブや外食等にも心がけている。また、外出する方がかたよらないように本人の希望を聞きながら楽しめるようにしている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預かるようにしている。小銭等を持たれている方もいる。買い物の際も御自分で払えるようお渡しする事もある
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はいつでも電話のやり取りができる。 (ご家族との事前の相談のうえ)
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾りに配慮している。壁画作成を一緒に行い、季節ごと月ごとに変更している
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の途中にソファを配置し、個々が利用できるよう工夫している
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族、ご本人に出来るだけ馴染みの物を持ってきてもらっている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを多く配置し、安全に移動できるように配慮している トイレや居室には目印をつけている

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ理念の他に事業所独自の理念をオープン時に全員で作成し実績に繋げるように努力をしている
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の挨拶やホーム行事の際の案内をさせて頂きより良い関係作りを図り、次に活かされる交流を行っている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	常日頃に面会の際や電話での問い合わせ、また突然の見学があった時等、相談があった場合は対応している
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や自治会の参加も多くホームの状況等報告し様々なアドバイスや意見交換を行い、クオリティの高いサービスを提供する為に活かしている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他、直接連絡をとり相談、協力をして頂いている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の開錠については取り組みができていない状態である。しかし、言葉や態度の抑制等についても意識を高く持つよう勉強会や各ユニット会議で呼びかけている。また施錠に関しても各ユニットが連携を図り、拘束をしないケアを行う為に日頃より取り組んでいる
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等により虐待防止について学ぶ機会を定期的に設け、また、日頃より細心の注意を払い虐待防止に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解に関する研修を行い取り組み、それらを活用できるようには努力しているが活用できる機会は少ない
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御利用者、御家族様に十分に納得して頂けるよう時間を掛けて十分な説明会を行い理解をして頂けるまで説明を行っている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置を行っている。また、気軽に話して頂けるような関係作りに全職員努め意見があれば即時に対応や対策を行える状態を作っている
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会を開催し意見の吸い上げ等を行い会議以外にも意見や提案が言えるような関係を作り実践している
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員体制を確保したりスキルアップの為に研修制度、支援制度が活用できるよう図り、また各スタッフにアドバイス等を行い、より良い関係作りなどに努めている
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に他事業所合同での勉強会を開催している
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修など機会があれば参加できるよう収集している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して入居して頂く為に、ご本人との面談を行い状態の把握に努め各スタッフとも情報を共有している
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居初期にはご家族様と少しでもコミュニケーションの機会を多く持つように電話や直接お会いし、ご家族の想いに応えている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご本人の意思や望みを確認しながら状態に応じた支援に努めている
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重しながら役割をもって頂き、「生活」という部分を大切にし関係を築いている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共にご本人を支えていく関係が築けるよう、ご家族とのコミュニケーションを多く持ち日頃の様子等、お伝えしたりしている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のご友人や関係の方がホームに来られたりして、他利用者とも交流して下さっている
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の協力関係もあり職員も良好な関係が保てるよう努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院になった場合、お見舞いに行っている。 また、退去になった場合においてもアルバム等を作成し関係を継続出来るよう努めている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活スタイルを大切に、強制せず、その方らしい暮らしを日々工夫して努めている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員一人一人が生活歴を把握し、ご本人に合った生活を提供できるよう努めている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、生活している中で細かな変化や状態に気付けるよう連携を行っている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を聞き考慮し職員個々が評価を行いユニット会等で検討し見直しを行い申し送り時等にも話し合う機会を持つようにしている
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子や気づき等も記入し情報を共有しながら検討し介護計画に活かしている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	具体的な取り組みはないが協働できる環境や季節に応じた行事を計画し実践し運営推進会議等を通じて相談している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園の運動会等に参加し地域の交流を図っている。また、行事等があれば地域のボランティアの方達に声を掛けさせて頂き参加を呼び掛けている
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の定期往診を受けており連携により相談も受けている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所看護師と共に日常の健康管理を行い医療機関との連携体制もできている
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者だけでなくスタッフも面会に行き病院関係者との情報交換や相談を行っている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在1名の方が医療とも相談の上で看取りとなっているが看取りの指針の元で、ご家族の意向に沿い、日頃の様子をお伝えし早期に対応出来る状態を作っている
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを提示し応急手当、AEDの使用法等の勉強会を行っている
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員が迅速かつ正確に動けるよう避難訓練を定期的に行い災害時対策などの研修機会もある

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーを尊重し、トイレや更衣の時、又は個々の情報的なことまで様々な場面において記号なども利用し考慮している
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定が出来る声掛けを行い職員目線で行わないよう努めている
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	過ごしたい一日を送って頂けるよう、ご本人様の希望を共有し生活して頂いている
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用し洋服等はご本人に選んでもらえるように声掛けを行っている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に日常の事などを話し合いながら、ゆっくりと食事を楽しんでもらえるようにし、準備や片づけも出来る範囲の中で日々、一緒に行っている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事形態での提供を行い食事量・水分量の把握は行えている。摂取不良時には看護師や主治医等に相談対応したり、栄養補助ドリンク等を使用し把握し支援できている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その都度、起床後、食後、入床前の口腔ケアは行っている。口腔状態により、歯科に相談・送信依頼している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握しトイレ案内を行う事でオムツは出来るだけ外すようにし、快適に過ごせるように支援している
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分摂取量に気を付け散歩や運動による予防に努め、また、看護師に相談し対策を行っている
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	回数や曜日、入浴時間など指定はせず一人ひとりの意思を尊重し体調面も考慮し対応を考えている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて居室やソファ等ご自由に休息できており、状態により休息を促す声掛けも行っている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容の把握・指導は薬局の指導のもと行っている。変更時も処方箋を読み確認し適切な服薬支援を行っている。また、二重確認の徹底も行っている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや、体操、屋外でのおやつを提供したりとイベント以外にも、刺激のある生活を送って頂くよう、日々工夫し努めている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など、希望に沿って支援に努めている。ドライブや外食などにも心がけている。ご本人の希望により時々、外泊されている方もいる

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預かるようにしている。小銭等を持たれている方もいる。買い物の際もご自分で払えるようお渡しする事もある
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はいつでも電話や手紙のやり取りができる
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり壁画創作に配慮しながら季節を感じられるよう工夫をしている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間の中で気の合ったご利用者様同士で思い思いに過ごせるように環境の工夫は行っている
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様やご本人様に出来るだけ馴染みのある物を持って来て頂き、落ち着いた空間の配慮をしている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを多く配置し安全に移動出来るよう配慮している